

## ■ グループ紹介

# (株)間組エネルギー本部

### <はじめに>

エネルギー新時代を迎えて、石油代替エネルギーや新エネルギーの開発が急がれているが、当エネルギー本部は、このような社会ニーズに対応して、今まで、いくつかのセクションにわかれて活動していたエネルギー関連業務を統合して、営業と技術部門とが一体となって、いわゆる「技術営業」を展開すべく、昭和58年1月に発足し、今日に至っている。

エネルギー本部は、営業部、エンジニアリング部、原子力部の3部で構成されている。

### 1. 営業部

一口にエネルギーと云っても、その種類は非常に多く、原子力、石炭、地熱、LNG、LPGから、風力、海洋エネルギーまで、既存の技術で組み立てられるものと、新しく開発しなければならないものがあり、社会ニーズ、企業ニーズを把握して、ゼネコン(建設業)の領域で技術開発に取り組み、工事の受注に結びつける役割を課せられている部門である。従って、営業エリアは、官庁、公社、公団を始め、電力会社、石油会社、機械および電機メーカー等、多方面に亘っている。

### 2. エンジニアリング部

わが社も、EC化をめざして活動を展開しているが、その中核となるセクションである。現在は、地下と海洋を中心に、技術情報の収集、ケース・スタディーの実施、エネルギー関連技術の開発等を手掛けている。

その主なものを挙げると、

|              |                 |
|--------------|-----------------|
| 石油類地下備蓄      | 地熱および熱水利用       |
| 超電導エネルギー     | 水中貯炭システム        |
| 石炭灰人工魚礁      | 防災シェルター         |
| 沖合人工島        | コンクリート・プラットフォーム |
| 消波堤          | 大型浮体構造物         |
| 岩盤空洞掘削コストダウン | 長大立坑施工          |

### 3. 原子力部

原子力は、わが国のエネルギー政策の中心になるもので、原子力発電所の建設が押し進められているが、地域住民の反対等で、新規立地が仲々難しい状況にある。一方、原子力発電を取り巻く周辺技術として、デコミッション、高レベル廃棄物処分、低レベル廃棄物処理、核燃料サイクルその他の新技術の開発が進められつつある。当原子力部では、このような原子力をめぐる一連の技術開発——新立地(第4紀層、洋上、地下)から、廃棄物処分に到るまでの各テーマを、あるいは共同研究に参加し、あるいは自社単独に研究開発を行っている。

一方、電力会社からの強い要望もあって、施工技術の改良による建設費のコスト・ダウンを精力的に進めつつある。

また、中小型原子力発電プラント、原子力船関連プロジェクト、ラジオ・アイソトープ関係プロジェクト、プラズマ計画等にも、積極的に関与している。

### <おわりに>

以上、簡単に、エネルギー本部の業務を紹介したが、新技術や新工法の開発には、社内の技術研究所や、土木・建築の技術部との連携が必要なばかりでなく、他産業、他分野との密接な接触、即ち、業際間の協力が不可欠で、この意味において、今後、各方面の御指導を得たいと願っている。

所在地：〒107 東京都港区北青山2-5-8

(文責：芳賀幸雄)